Economic Indicators

発表日：2023 年 4 月 12 日（水）

機械受注統計調査(2023 年 2 月)

～事前予想を上回るも、機械受注は停滞感が強い～

第一生命経済研究所　経済調査部
副主任エコノミスト　大柴　千智（TEL：03-5221-4525）

（単位：%）

		民需（船舶・電力除く）	製造業	非製造業（船舶・電力除く）	代理店	官公需	外需
		前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
21	1-3月	▲ 3.5	0.7	▲ 5.6	3.3	▲ 3.8	31.6
	4-6月	3.1	8.4	▲ 1.9	8.2	▲ 4.6	▲ 7.3
	7-9月	1.4	6.5	▲ 1.8	1.7	10.9	8.9
	10-12月	5.2	6.2	2.2	2.4	3.3	4.7
22	1-3月	▲ 2.7	1.3	▲ 5.2	▲ 10.8	▲ 4.2	▲ 6.7
	4-6月	6.7	5.7	6.9	10.4	4.0	22.6
	7-9月	▲ 1.6	▲ 2.8	▲ 0.4	▲ 3.7	▲ 8.4	▲ 12.8
	10-12月	▲ 4.7	▲ 10.6	2.1	1.4	▲ 3.6	2.4
23	1-3月（見）	2.9	10.2	▲ 3.2	3.5	19.7	▲ 2.3
22	1月	▲ 1.7	▲ 5.5	0.2	▲ 0.6	▲ 12.8	▲ 0.6
	2月	▲ 8.1	▲ 0.5	▲ 11.0	▲ 14.8	▲ 4.8	▲ 0.6
	3月	6.3	6.1	9.7	18.8	43.6	▲ 14.5
	4月	8.4	5.9	6.8	2.6	▲ 7.0	46.0
	5月	▲ 4.5	▲ 7.6	▲ 3.7	5.8	▲ 14.0	▲ 9.2
	6月	0.6	3.9	1.4	▲ 6.6	▲ 0.5	▲ 0.7
	7月	3.8	▲ 4.6	11.2	▲ 3.2	▲ 11.4	▲ 2.3
	8月	▲ 4.6	6.3	▲ 16.6	1.9	16.2	▲ 14.7
	9月	▲ 3.2	▲ 6.3	3.5	2.9	▲ 3.8	9.0
	10月	3.5	▲ 4.1	9.0	▲ 1.4	0.3	▲ 2.1
	11月	▲ 6.7	▲ 8.0	▲ 2.1	0.4	▲ 5.0	1.2
	12月	0.3	2.5	▲ 3.2	0.1	▲ 8.5	10.5
23	1月	9.5	▲ 2.6	19.5	2.8	5.4	▲ 25.2
	2月	▲ 4.5	10.2	▲ 14.7	▲ 6.8	45.8	2.3

（出所） 内閣府「機械受注統計」

○機械受注は停滞感が強い

内閣府から発表された 23 年 2 月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は前月比▲4.5%と、2 か月ぶりの減少となった。事前の市場予想（同▲7.8%）を上回ったが、製造業の大型案件による一時的な上振れ（製造業：前月比＋10.2%）によるところが大きい。1-2 月平均でみると、機械受注全体では 22 年 10-12 月期対比＋4.7%と上回っているものの、来月は製造業が反動減となる可能性が高く、22 年後半から続く落ち込みを取り返すには至らないだろう。非製造業は国内サービス需要の回復を背景に持ち直し傾向にある一方で、海外経済の減速懸念を受けて製造業は下押し圧力の強い状況が続いており、機械受注全体としても停滞感の強い状態が続いている。

○非製造業は持ち直しも、製造業受注は低迷が続く

民需（船舶・電力除く）の内訳をみると、製造業は前月比＋10.2%、非製造業は▲14.7%となっ

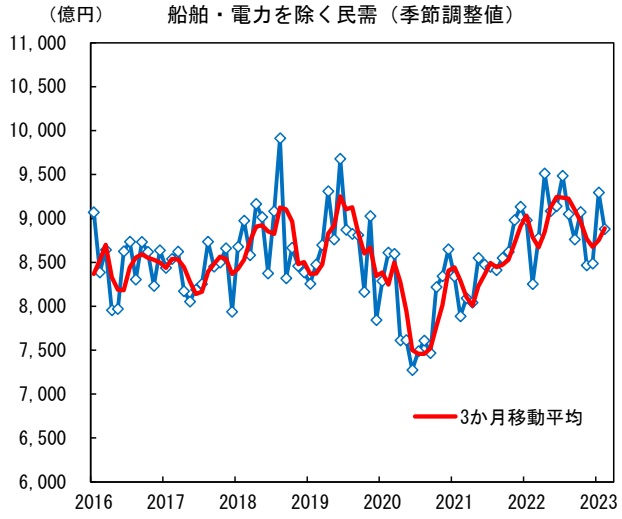
た。

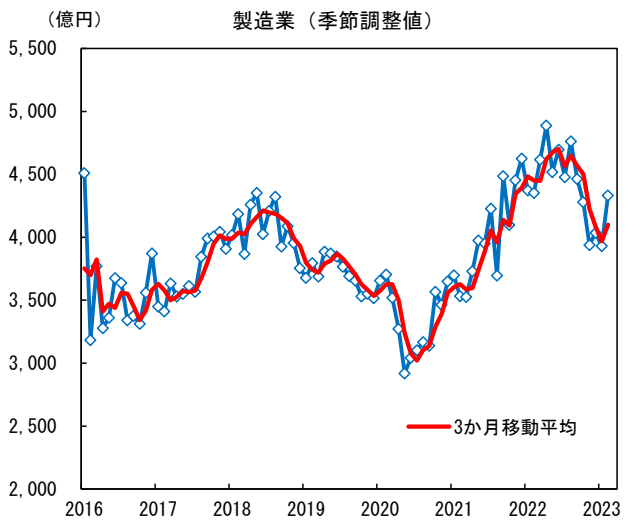
製造業は 2 か月ぶりの増加となったが、今回の大幅増加の要因は、非鉄金属での大型案件の受注による上振れの影響が大きい（非鉄金属：前月比＋330.8%）。非鉄金属を除けば製造業は前月比▲0.4%程度に留まり、2 か月連続減少となっていたことに注意が必要だ。製造業を 1-2 月平均でみると 22 年 10-12 月期対比で＋1.1%のプラスとなったものの、10-12 月期（前期比▲10.6%）の落ち込みの後としては弱い。これまでの減少傾向から一旦の下げ止まりが見られるが、海外経済の減速懸念による投資の先送りが続いていることで、製造業の慎重姿勢は強まっている。法人企業景気予測調査や日銀短観などでは引き続き製造業の高い投資意欲が示されているが、足元の機械受注は設備投資の盛り上がりを示すほど強くなく、強気の設備投資計画がそのまま実現すると考えるのは楽観的だろう。

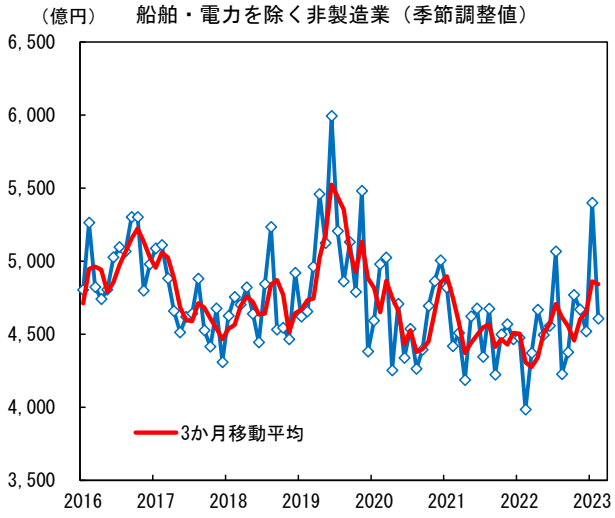
一方、非製造業（船舶・電力除く）は、前月 1 月に同＋19.5%と高い伸びとなった反動で、前月比▲14.7%と減少となった。1-2 月平均でみると 22 年 10-12 月期対比で＋15.2%の増加となっており、非製造業は持ち直しが続いている。国内のサービス需要の回復が期待される中で今後も持ち直しが期待できるだろう。

○外需の減速が強まる

製造業は、短期的に輸出の影響を受けやすい。資本財輸出の先行指標と言われる外需については、前月比＋2.3%と 2 か月ぶりの増加となった。もっとも、1 月の大幅な落ち込み（前月比▲25.2%）の後としては弱く、1-2 月平均は 22 年 10-12 月期対比で▲18.9%pt も下回っており 1-3 月期は再びマイナスに転じることが確実だ。外需は 22 年 7-9 月期以降は明確に減少傾向にあり、今後も欧米諸国を中心とした世界経済の減速で当面弱い動きが続くとみられる。製造業受注についても、こうした世界経済の減速による下押し圧力がかかるだろう。機械受注の先行きについては、非製造業で緩やかな持ち直しが続く中、製造業の低迷が続くことで全体としても停滞感の強い状況が続くとみる。







本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。